

HIMALAYA

ヒマラヤ
No. 292



1996 MARCH



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

H A J から募集のお知らせ

地図と図書の販売

会員の希望に応じて中国の下記地図を販売します。また、図書にも残部がありますので必要な方は事務局宛申し込んで下さい。

1. 地図 (いずれも中文 1 枚 1,500 円 送料込み)

珠穆朗瑪峰: 10 万分の一 (東はマカルーから、西はチョー・オユーまで)

喬戈里峰: 10 万分の一 (東はガッシャーブルム I から、西はクラウン、チリンまで)

希夏那馬峯: 10 万分の一 (東はモラメンチンから、西はガネッシュ・ヒマールまで)

但し、主峰が 8,012m のものである。

公格爾山-慕士塔格: 10 万分の一 (コンゲールとムスターグ・アタであるが、シワクテなども含まれる。

2. 図書

中国登山指南 (4,500 円 + 送料 340 円) 中文

雪域神山 (6,000 円 + 送料 500 円) 写真集、但し注文制のため 2 ~ 3 ヶ月かかります。

合同登山隊員

H A J ではチベットと合同登山を協議中です。目標の山については、2 ~ 3 に絞っていますが、対象は 7 千メートル以上の山で、あまり登山記録のない山、日本人未登の山、未踏峰です。隊員数など状況が許せば複数の山も考えています。

合同登山は立場の違いを理解してはじめて成り立ちます。今回の合同は特に合同でなくとも許可取得できる山です。

情報の少ない山で異文化の民族との合同登山の実践を希望する真摯な岳人の応募を期待します。

記

1. 登山期間予定: 1997 年春
2. 場所: 中国、チベット自治区ヒマラヤ山脈
3. 個人負担予定額: 100 万円程度
4. 募集人員: 7 名
5. 資格: 登山 5 年以上
6. 申込み先: H A J 事務局宛

表紙写真

山名のサラ・シュワは「サラ・スワティ」のなまったもののようで、「サラ」は「雪」、「スワティ」は「友達」を意味するので「雪の友達」の意と思われる。

「サラスワティ」とはヒンズーの神様の名前で、ヒマチャール・ヒマラヤに「サラスワティ」という山がある。詳細は本文を参照。(沖 允人)

ヒマラヤ No.292

- | | |
|---------------------------------------|------|
| 1. サラ・シュワ峰初登頂 | 沖 允人 |
| 6. 中高年? ヒマラヤ流れ旅(2) | |
| ひとまずインドのヒマチャール | 阿部 淳 |
| 9. ヒマラヤ・ニュース <地域ニュース・インフォメーション・Books> | |
| 11. トータル獲得標高 1995 | 山森欣一 |
| 24. 寸感・事務局日誌 | |

インド・南東ラダック、ルプシュ地方

サラ・シュワ峰初登頂

沖 允人（足利工業大学山岳部・OB会）

はじめに

サラ・シュワ峰(Mt.Sara Shuwa)は、インド北辺境・ラダック地方東南部にある地図上では無名峰のピーク(推定 6238m)である。現地ではこの山群一帯をサラ・シュワと総称している。私たち足利工業大学山岳部インドヒマラヤ学術登山隊が全員初登頂したピークは、標高約4300mのツォモリリ湖(Tsomoriri)という周辺を雪山に囲まれた高山湖の西側の奥にそびえ、サラ・シュワ山群の中心となるピークである。「サラ・シュワ」とは山麓の人たちの話では「雪の友達」を意味するということであった。

この地域は国防上の理由から一般人の入域が長い間禁止されていたこともあって一部は未探査地域であり、ルプシュ(Rupsh)地方またはマングリック(Mangrik)地域と呼ばれている。ルプシュ地方には少なくとも20余りの6000mを越える山々があり、後述する5つを除いては、いずれも1995年10月現在未踏峰である。

行動概要

7月30日、先発隊、8月3日本隊、成田発。

8月5日にデリーを車2台で出発、レーで入域許可を取得し、8月10日にツォモリリ湖西側のカルゾック村(4300m)の西方の高台に着き、ベースキャンプを建設(4500m)した。

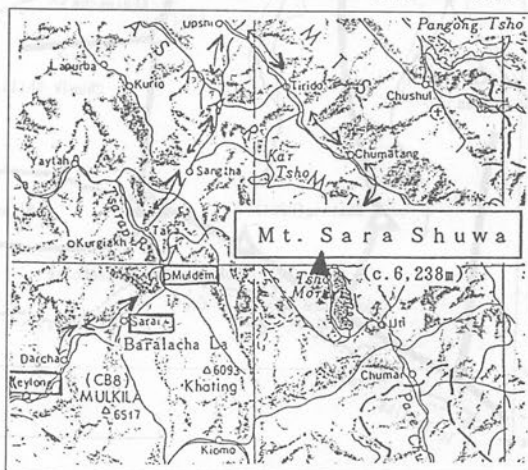
この地域は、標高が4000mを越すに加えて、アプローチとなる軍用道路が一部未完成で、ラダックの主都レー(Leh)からのジープによる接近は容易ではない。特に奥地の道路の整備が極端に悪く、また、ここ二、三年の夏は雨が多く、そのための土砂崩れによる交通遮断があり、さらに、悪路による長時間の走行のためにトラブルが多発し、予

定を変更せざるを得ない場合が多い。

8月11日にベースキャンプで隊貨の整理と登山準備をし、12日、カルゾック・プーの河を渡り、低い草の生えた斜面を登り、上部への登路(北東稜)を偵察した。サラ・シュワ連山は、ほぼ、南北に10kmほど連なる峰々は上部は万年雪に覆われ、下部は氷河推石の岩石帯で形成され、山麓は夏季の山羊の放牧地となっており、雄大な風景を展開している。

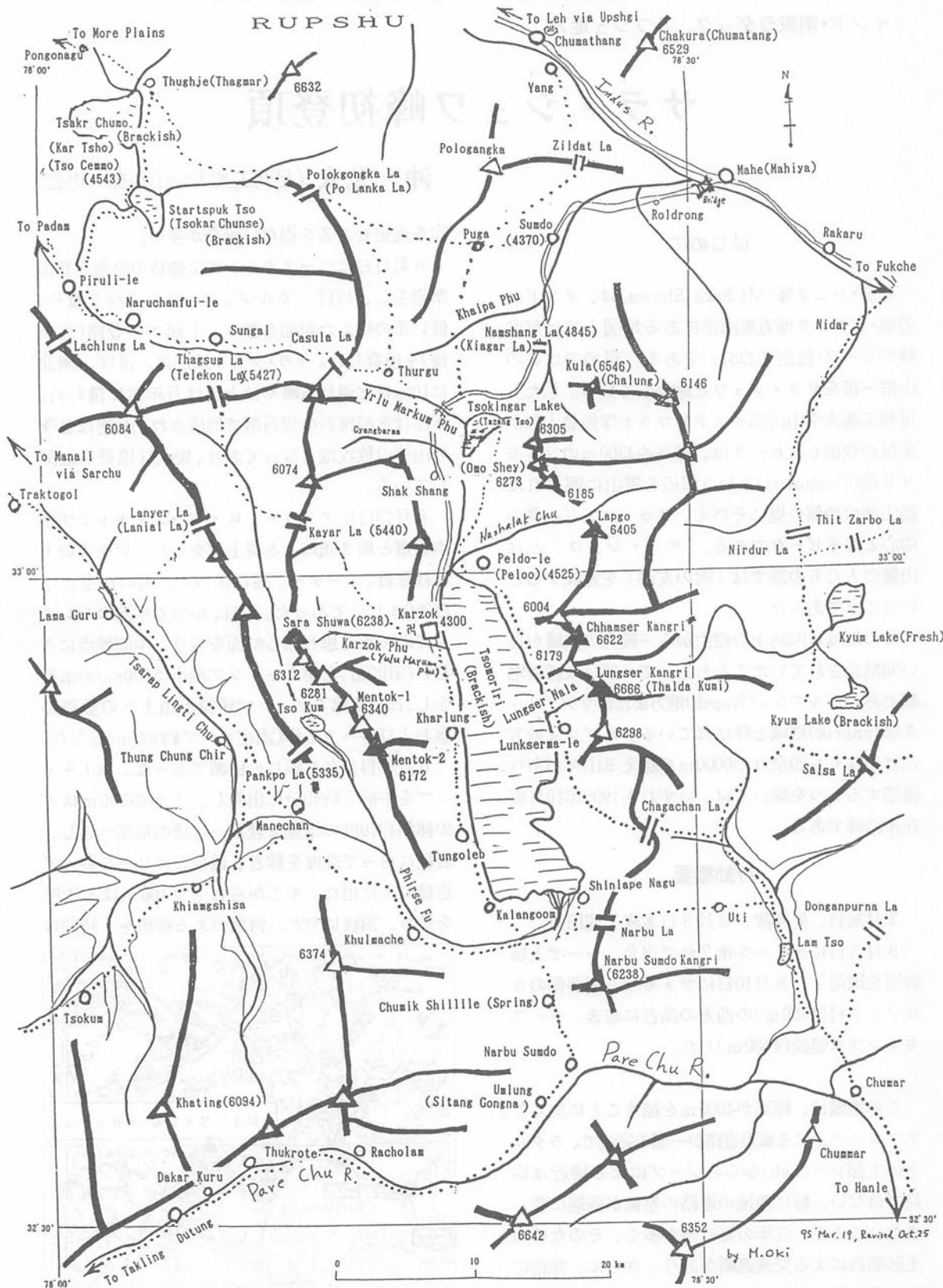
8月13日にアドヴァンス・ベース・キャンプ地点偵察と馬2頭による荷上げをした。以後の荷上げは隊員、ポーター、馬によった。馬の料金は1日250ルピーであった。翌日、かつて氷河のモレインであったと思われる斜面を登り、中間地点にABC(5100m)と第1キャンプ地点(5600m)の偵察をし、15日に第1キャンプ建設と頂上への登路偵察およびルート工作(固定ロープ約500m)をした。

8月16日は久しぶりの快晴であった。第1キャンプを午前5時40分に出発し、下部の300mほどの傾斜約70度の雪壁を登り、岩稜の基部へ達し、岩稜に沿って高度を稼ぎ、最後のガリーを登って岩稜の上に出た。そこからさらに100mほど雪壁を登り、頂稜にでた。雪庇のある稜線を1時間ほ



SOUTH EAST LADAKH

RUPSHU



ど進み、午前10時55分に竹沢・高瀬・CHOWDHURYの3名が登頂をした。その夜はABCへ泊まった。この日第2次登頂要員がベースキャンプから第1キャンプへ入り第1次登頂隊を支援した。翌日、第1キャンプから第2次登頂（沖・安間・松崎）が午前3時に出発し、午前9時に登頂した。お昼前から小雪がちらつく天気となった。もう少し遅かったら悪天にまきこまれるところであった。

8月18日にABCを撤収し、全員ベースキャンプへ下山した。19-20日の2日間で隊貨の整理し、21日、ベース・キャンプを車で出発し、ウブシ経由で8月22日マナリ着。

8月23日はマナリ周辺を調査し、24日マナリを車で出発し、デリーに帰着した。25日に関係官庁等に登山報告後、26日から各調査旅行に出発し、8月31日から9月24日にかけて順次帰国した。

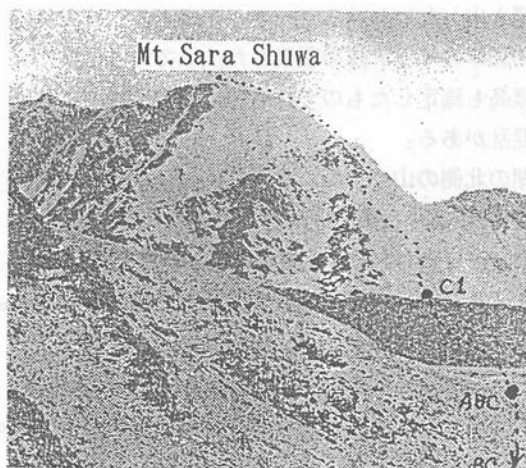
（標高は高度計等による推定値）

アプローチ

レーから強行1日でツォモリリ湖に達しられる。第一段階としてチュクン(Chukun)経由でマヘ(Mahe)にあるチェック・ポストに着く。マヘまでの道は保守はよくないが一応簡易舗装道路である。ここで入城のチェックを受ける。マヘから鉄橋でインダス川を渡し、支流の河原のそばを走る。道はかなり悪くなる。河原のそばの草原に小犬ほどのマーモットが沢山いる。黄色の花や紫のラベンダーの花が沢山見受けられる。しかし、周辺は岩と砂の山また山である。

マヘから2時間でチョルテン(仏塔)の沢山あるスムド(Sumdo)を通過する。

さらに2時間ほど走ると標高4845mほどの小さい峠であるナムシャン・ラ(Namshang La、またはKiagar La)を越える。ツォモリリ湖の手前にも小さい湖があり、これはチョタ・ツォモリリ(Chota Tsomoriri、小さいツォモリリの意)(Tsokingar、または、Tazang Tso)と呼ばれている。ツォモリリの湖の水は、かつては、濃い塩水であったと報告されているが、現在はあまり塩辛くない。炊事用に使用できないことはなさそうである。また、周辺の山々から湖に注ぐいくつかの川があり、これらはたいい飲み水にできるきれいな水であ



る。しかし、ときどき上流で降雨があったりすると川の水が突然濁ることがある。

カルゾック村

ナムシャン・ラから1時間ほどでツォモリリ湖畔に達する。湖畔には軍のキャンプ(兵舎)があり、軍事訓練用のボートやヨットが湖に浮かんでいる。カルゾック(Karzok)村の北端である。カルゾック村はこのあたりでは一番大きく、また、人々が定住している唯一の村である。

軍のキャンプの近くにはレストハウスもある。このレストハウスに宿泊するには前もってレーで予約しておく必要がある。レストハウスに泊まらないトレッカーは、村の近くの広場や河原に幕営することになる。

村の民家は、湖の西側の少し小高い斜面に50軒ほどある。一番高いところに大きいゴンパ(チベット仏教のお寺)がある。ヤク(高地に棲む毛の長い牛)、羊、馬、ロバなどがいる。民家は屋根が水平で1階建か2階建ての日干しレンガによるチベット様式の建物が多い。前面をガラス張りにしたインド風のモダンな建物も建設中であった。モンゴル風のバオ形テントで生活している人もいる。小さいながら雑貨屋と茶屋もあり、複式の小学校も開設されている。

周辺の山々

湖の周辺には多くの山々が見られるが、これらは、いずれも地図上では無名峰である。ここに記した山名は、この村の学校の先生や古老などから

聞き出したいわゆるローカル・ネーム、または、1995年のインド隊の収集した山名であり、また、標高も確定したものではない。したがって、若干混乱がある。

湖の北側の山々 湖の北東にキューラ(Kula) (6546m)があり、美しいピラミダルな山容である。キューラとは「三つの曲がり角」の意だという。キューラの西の尾根続きに6146mの無名峰がある。

マへの北にも美しい6000級の山があり、チャクーラ(Chakura) (別名Chamatang)と呼ばれている。チャクーラとは「四つの曲がり角」の意だという。

マへの西にジルダート・ラ(Zildat La)の峠があるが、そのさらに西にポロゴンカ(Polokgonka)という6000級の登高意欲をそそられる山がある。同名の峠がその西にある。

キューラの南西のあまり水のないナシャラク・チュウ(Nashalak Chu)の上流右岸にはヤル・マルクム・プー(Yalu Markum Phu) (6305m)、オモシェイ(Omoshey) (6273m)、6,185mの無名峰がある。

湖の東側の山々 カルゾック村から湖の向こうの東側に見えているのはこのルプシュ地方の最高峰であるルンサル・カンリ(Lungser Kangri) (6666m)である。その南にチャムセル・カンリ(Chhamser Kangri) (6622m)、北にラプゴ(Lapgo) (6405m)があり、カルゾックの村からこの三山が正面に眺められる。

これらの山々へのアプローチはラプゴ・ナラの谷を溯るが、かなり上部から伏流になっているので飲み水を得られる場所が限定される。このことはこの地方全体の特殊事情である。これらの3つのピークには1995年6月に、ボンベイのカパディア(H.Kapadia)隊が入山し、登頂した。チャムセル・カンリの頂上には60年以上前と思われるインド測量局によるケルンが積まれていたという。

この山塊には6004m、6179m、6298mの無名峰があるが、前記のピークほどの山容ではない。

湖の西側の山々 カールドゥング(Khardung)の村跡の西にはメントーク(MentokまたはMata)のⅡ峰(6172m)があり、これは、1984年にインドのバタチャルジー隊が登頂している。その北のメントークⅠ峰(6340m)は1995年6月にインドのデリー

▼チャムセル・カンリ (左) とルンサ・カンリ



の2人のパーティが試登したにとどまっている。

カルゾックの村の西にはカルゾック・プー(Karsok Phu)というかなり水量の多い川が流れているが、この上流にサラ・シュワ山塊(Sara Shuwa)がある。山麓は夏の羊などの放牧場となっており、羊飼いの人たちのテントが散在している。主峰のサラ・シュワ(6238m)は1995年8月に私たちの足利工業大学隊が北東稜から初登頂した。この南には6312mと6281mの無名峰があるが未登である。これらは東面が切れ落ちて岩壁となっているのでカルゾックから直接取り付くことは困難で、サラ・シュワ峰経由かメントーク峰経由となり、したがってアプローチが長くなる。

湖の南から流れ込む川はフィルセ・プーというが、この中流域右岸に6374mの無名峰がある。この川はタラップ・リング・チュウ(Tarap Lingti Chu)というもう一つの西の川と合流しているのか、または、タラップ・リング・チュウとは別の川なのかははっきりしない。6374m峰の南西にカティン(Khatting) (6094m)があるが、このあたりの地形は不明なところが多く、今後の探査の結果が期待される。

湖の南側の山々 湖のすぐ南にはヌルブ・スモド(Nurbu Sumdo)の村跡があり、ヌルブ・スモド・カンリ(6238m)がある。この南のパレ・チュウ(Pare Chu)の右岸には6642m、6352mの無名峰があり、その東に6000m級の岩山のチュマール(Chumar)が見える。この山塊の南はスピティの山々であり、スピティの高峰ギャ(Gya) (6749m) (1995年8月インド隊初登頂)が、晴れていればカルゾックの村から遠望できる。ギャの北面も南面同様に困難な岩壁となっている。

目立つ三つの山 ルプシュ地方で目立つ山としては、湖北のチャクーラ(6000m級)、ポロゴンカ(6000m級)、湖西のメントークⅠ峰(6340m)とⅡ峰(6172m)、サラ・シュワ(6328m)、湖東のルンサル・カンリ(6666m)チャムセル・カンリ(6622m)であるというのがボンベイのヒマラヤ研究家カパディア氏と筆者が彼の自宅で討論した結果、一致した意見であった。このうち1995年10月現在未登の山々はチャクーラ、ポロゴンカ、メントークⅠ峰である。

おわりに

湖の周辺の山々には夏でも雪が降る。しかし、基本的にはいわゆるドライ・エリアであり、年間を通して降水量は少ない。山麓にも山にも樹木はもちろん無く、緑も僅かである。したがって沢や山中に水が乏しい。雪線は高く、5300m位である。天候は急変することがあり、強い雨、雪、あられなどが降り、突然雷鳴がとどろくこともある。したがって、朝のうち晴れていても安心できない。

このあたりでは、一番標高が低いところは湖な

ので、高山病にかかる標高の低いところへ下ることが困難で、快復までに時間がかかる。より高度の低い病院や医者のあるレーまで帰るためには車が必要であるし、1日はたっぷりかかる。

今回の登山でこの地域の地理的情報がかなり得られたと思う。登山許可の取得に多少手間がかかるが、上記のようなことに注意すれば、まだまだ、探検の魅力が残っており、手軽に登山できる魅力あるところといえよう。

なお、「サラ・シュワ初登頂」(頒価送料共3,000円)の残部があるので、下記に問い合わせられたい。
沖 允人 326栃木県足利市本城3-1905-7-703)

ハガキかFAX (0284-62-4235) 足利工大気付

隊の構成

隊長・沖允人(60)、副隊長・竹沢雄三(53)、登攀隊長・高瀬浩紀(22)、隊員・安間義之(40)、隊員・松崎高志(19)、リエゾン・オフィサー：Arun Roy CHOWDHURY(27)、ポーター4名、ベースキャンプ要員3名

東京新聞の本

登山のオールラウンド情報誌



毎月15日発売(日・祝日の場合は前日) 定価670円

■本誌の年間購読ご案内

本誌の購読は、全国の書店、東京新聞販売店、中日新聞販売店、北陸中日新聞販売店で承ります。

直接購読ご希望の方は、とじ込みの振替用紙に「岳人何月号」からとお書きのうえ、送り先郵便番号、住所、氏名を明記して、ご送金ください。

郵送料は通常号116円、特大号124円です。年間購読料は8,480円で送料は当社負担です。お求めの本誌に乱丁、落丁がありましたらお取り替えいたします。

■第1特集

- 1月号★アイゼン、輪かん、スキー
タイプ別雪山山行
- 2月号 自然案内人と山を歩こう
山をもっと味わうために
- 3月号★全員集合/山スキー・フリーク
- 4月号 自然の源・針葉樹と広葉樹、
照葉樹の森を歩く
- 5月号★GWに楽しむ山
雪縷・新緑そして花の山
- 6月号 北海道の山と人
日高、大雪、知床をめぐって
- 7月号★読者がつくる夏山プラン
ファミリー賛歌
- 8月号 湿原の山旅
地図で探したとおきの池瀧
私の好きな山小屋
近郊の山から北アルプスまで
- 10月号★HOW TO 紅葉の山を味わう
撮る、描く、遊ぶ
- 11月号 ローカル線の山旅
徹底ガイド付き
- 12月号 実践/雪山へのいざない
(入門編)

(★は特大号となります)

■特別企画

- 1月号「僕でも登れる？」
——冬のハケ岳を楽しむ
- 2月号「僕でも登れる？」
——アイスクライミングに挑戦
- 3月号「僕でも登れる？」
——尾瀬で山岳スキーに開眼
- 4月号「僕でも登れる？」
——これぞ岳人/春雪の西穂高
岳へ(12回完結)
- 5月号「アルプス・ツェルマット研究」
- 6月号「モンブラン一周トレッキング」
- 7月号「花のアルプス・ハイキング」
- 8月号「ドロマテの岩塔に遊ぶ」
- 9月号「南米ロライマ山にロストワ
ールドを訪ねる」
- 10月号「ニュージーランド——手付か
ずの自然を楽しむ」
- 11月号「海外トレックの王道・エペ
レスト街道に行く」
- 12月号「冬の北米、アウトドアライフ
最新事情」

東京新聞出版局(中日新聞) 〒108 東京都港区港南2-3-13 ☎(03)3740-2674
書店で発売中。中日新聞販売店でも取りつぎます。

ひとまずインドのヒマチャール

阿部 淳

(1) 早過ぎたネパールの春

3/2、珍しくワイフと娘が札幌駅まで送ってくれた。こんなことは初めてだ。そのためか、新千歳空港の改札では予約がキャンセルされているというハプニングが起きた(キャセイ航空のミス)。千歳空港も、91年からやっと国際便が発着し、[千歳<キャセイ航空>香港<ネパール航空>]により1日でネパールに到着できるが(帰りは香港一泊)、キャセイ航空は帰りのオープンをノーマル通貨でしか売らない。今回はネパール航空の計らいで[カトマンズ<ネパール航空>関西空港<ANA>新千歳]のネパールを安目に入手できた。

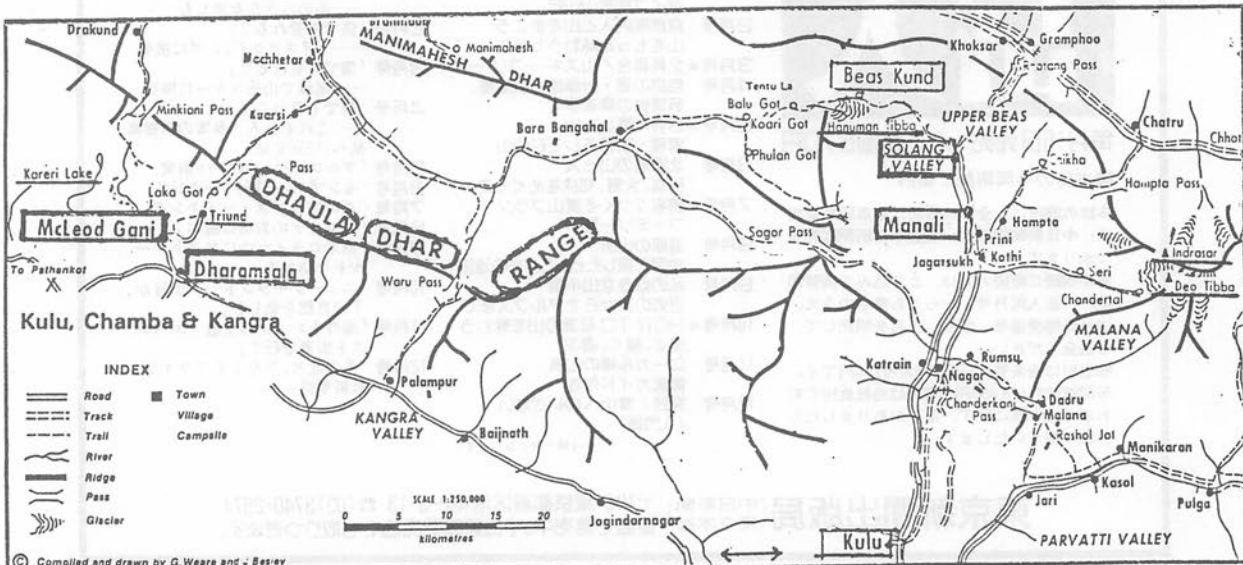
カトマンズ空港ではすぐ並んでビザ申請書を書いている間に番が来て、待ってもらっている間に長い列ができた。ドルを払う段になってキャッシュはザックのなか、T/Cしかないことに気がついた。Excuse me! 機内で飲み過ぎたのか着く頃にはSuperrelaxed Syndrome(超弛緩症候群;BokeやKoukotuとは無関係)に侵されていたらしい。宿は昨年2月に泊まったタメールの西・チェト

ラパティのマルジャンディ・マンダラ・Hで交渉、B&B・15\$で決めた。HAJ会員の大森さんに聞いたホテルで、A/Cもファンもないがシャワーのお湯豊富、清潔第一で寝心地がよく、部屋からスワヤンブナート寺院が見える。しかし、部屋は暑い。ここ、Max 30, Min 10度。

翌日、昨春秋“えぞ山岳会OBカトマンズ集会”でお世話になったお礼で代理店Jai-Himalを訪問、その際今年は雪が多くガネッシュやランタンの奥はまだ早過ぎるという。先にインドに行くことにしたが、チケットは10日まで満席とのこと。3/5午前、直接Indian Airline(IA)のオフィスで掛け合うと、“今日の午後の便ならあるが、いいか?”と言う。それ!(2,900 IRS.¥7,820;1IRS=¥2.7)。

(2) 暑いインドならノープロブレム?

IC-814便で夕刻デリー着。札幌のインド料理店“マハラジャ”のサウジに聞いたコンノート・パレス・Hに電話するとB&B・60\$と言う。少し高いが拾い物だ。1年ぶりのインド、気温はMax



• Trekking in the Indian Himalaya by Garry Weare

22. Min 9度でネパールと逆である。翌日シカール・トラベル社では社長は外国、副社長のミセス・クマールがいたが詳しい山地情報は得られず、マナリといつか行きたかったダラムサラに行くことにした。

その日、宿を古い政府系のランジット・Hに代えた。650 IRS (¥1,755) で良い部屋が3つだけある。レストランの天井にハウスボートのデコラティブな彫りがあり15年程前か確かな見覚えがあった。挨拶代わりに ITBP (インド・チベット国境警察) のフカム・シンさんに電話すると、“今夜ぜひ来て下さい”と言う。そこにはエベレストに2回登ったインド人女性サントシュ・ヤダヴ夫妻 (ITBP隊員)、TV取材班の案内役として随行していたH A J 稲田理事長の才媛・ミカコさんら一行とも再開できた。ここで北部山岳地帯の雪の現状を入手、ガンゴトリー巡は後回しにした。

●ソーラン・ナラ・クレージー

3/9、Jagson Airlineのドーニア双発機 (18人乗り; 123\$) 20分でクルー飛行場 (ブンタール)、ここからのバスは満員なのか大きいザックで苦労したが皆親切にしてくれ、2時間でマナリに着く。前に来たのは86年、第4回ヒマラヤ会議の時、山田昇やキンナウル登山を終えた日印女子隊 (IMF-HAJ) の寺沢玲子隊長らと一緒に賑やかに過ごした。シカール社のクマールさん一家とはロータン・パスへ行ったのだった。10年たち街は随分ホテルや小店が増えたが、閑静なたたずまいは消えてしまった。観光案内へ寄り、市街地の安めのホテルを2、3軒回ったが暖房不完全、坂の上のメイ・フラワーGHとパノン・リゾートは改装中でクローズ、7日前にオープンしたサガール・リゾートは高いけどC・カードがOKなので (B&B, 2000RS=¥5,400) ここにした。A/Cがまだ作動せず風邪をひいて大幅にディスカウント。

翌日はマナリ登山学校を訪問、チョウハン校長は不在だったが副校長も“神の谷”ソーラン・ナラ (谷) を推薦、レストハウスの依頼状を書ってくれた。車は30分 (200RS=¥540) でストップ、そこにグルマルグを小型化したようなドンキーとソリ発着場があった。雪道を1km歩いてソーラン・

ナラ、そのスキー場の真下にレストハウスがあり、管理人棟 (台所&食堂) から数分雪を漕ぐと大きい宿泊棟だが、僕以外に客も人もおらず電気もなく薄気味悪い。少し引き返して雪に埋もれたロッジに泊まった。マキストーブがあるが風通しが良過ぎてひどく寒い (250RS=¥680)。しかし、やっと雪の山並みを前にして、嬉しくて堪らない。

インドではグルマルグ (カシミール) とマナリがスキー場として知られており、アジア冬季大会で札幌に来たインド選手もどちらかの出身者であった。だがここマナリのスロープのお粗末さ! ヘリスキーもあると聞くが、ハネムーン・カップルの絶好の戯れ場である。かれらは新婚ツアーで用意され、大はしゃぎでソリで運ばれ、生まれて初めてスキーをはめ、転んだ起きただもう大変! その微笑ましいインドのハネムーン風俗を眺めていると一人の青年 (下のブルワ村に住み新婚さんの面倒をみていたタクール君) に話しかけられ、“ベアスクンドに行きたかったが諦めた”と言うと往復5日で帰って来れるからスキー・トレックをしないかと言う。ベアスクンド (湖) はここから15kmで3,540m、ハヌマンティのBCで、途中からはディオティバ、インドラサンも見える筈だ。渡りに船! 夏は日本人もガイドしたと言うし、出店の人も“いいガイドだ”と言うので乗った。スキー合わせに1時間半下って彼家に行く。靴もピッタシだ。ガイド・コック・ポーターの賃金、他一切込みで9,600RS (¥25,000)。しかし、この家は1階が馬小屋、2階が人だが人為的汚れと悪臭には忍耐を必要とする。そして飲み水もなく沸かす水は遠く、暖炉もトイレもない。家が立て込んでいてPee (小便) の場所にも事欠く。あるのは2頭の馬と3世代大家族であった。寒くて完全防備でシュラフに入ったせいか夜中、異様な息苦しさで頻脈、次いで悪寒と震えとひどい過呼吸が襲ってきた。汗もビッショリ。脱水症を疑ってソーラン・ナラから持ち下げた貴重な水と高圧剤&解熱剤を飲み、複式呼吸を繰り返すうちに次第に改善した。原因が不明なのでこれをもってベアスクンドを中止した。

●一生忘れられないダウラダールの宿

次はダラムサラである。ダライラマ十四世はともかく、5～6,000mの静かなダウラダール山脈の麓には以前から行きたかった。できれば、夏には幾つかある峠を越えたかった。3/14、マナリから長距離バスは直行便のあるクルー経由で250km 100RS (¥270)、11時間半。ガタガタ道で時折殺人的混みようになるが、途中から長大なダウラダールの山々が北に現れてウキウキし、ウォークマンを聴きながらの優雅な旅となった。夜8時半着、遅いので政府系のダウラサル・Hに泊まったが900RS (¥2,400) もして寒く暗く、換金もなく、T/Cも扱わない。その上、ローカル英語で早口でトンチンカン、態度は横柄、ルームサービスもでたらめで、インド南端カニクマリの政府系タミール・ナドゥ・Hを思い出した。翌日、観光案内で情報を得てのち、標高750m高く7km離れた、ダライラマのチベット仏教エリア・マクロードガンジへ移動した。黄色い袈裟を着た修業僧で溢れている。西洋人観光客も多い。昼食のあと、下の観光案内で“ダウラダールの見える所”をせがんで薦められた、この先5km奥のタルヌー(別名ナディ)へそのまま向かった。

ヒュッテ名、ウデッチー・ハット(Udechee Huts)。もう感激だ。ダウラダール山脈がここタルヌー谷をへだてて迫っている。岩山を前衛峰として、その奥に連なる真っ白い山波! やがてその総てが次第に雪の中に没していく。そして、一陣の風ののち山嵐がタルヌー谷を襲い、うねり舞い、轟々と歌い、震撼させた。ダウラダールの神の気儘な遠吠えか。いや、歓迎の挨拶か。そして夕方訪れてきた、谷の日当たりと鳥達のさえずり、窓への陽だまりには小鳥がやってきて止まった。赤いドームのお伽のようなヒュッテ、そして英国仕込みの洗練された英語とマナーのオーナー夫妻…、ソーラン・ナラの一晩と昨夜のホテルの不快で滅入っていた僕にとって、このウデッチー・ハットはまさに夢のような幸せに満ちていた。一生忘れることはないであろう。

ここより800m高いトリウントの丘も美しいカレリ湖も雪でまだ早い。それにこの宿はインド人家族で満員になるというので名残惜しいが2泊だけでヒュッテに別れ、マクロードカンジに引き揚

▼ウデッチー・ハットとダウラダール山脈



げた。高値でクレージーなナトラジ・H (880RS=¥2,400)。翌日、ラマ教本山の青空大講堂でダライラマの大説教に接した。2万人をも越すラマ修業僧や街の信者や訪れた外国人を前に世界の平和と救世を説く穏やかな尊顔を、改めて拝見させてもらった。3/18、バスで何処までも続く山脈を楽しみながらプランプルに戻り、ハットのご主人が薦めてくれたタラガル・パレス・Hに着いた。800RS (¥2,200) だがカシミール王家の別荘との事で、その広さ、ガードニング、ユーティリティの奥ゆかしさ、豪華なルームの造りは最近の超デラックス・ホテルとは格が違う。庭でビールを楽しみながら、こんな贅沢な気分浸っていたら今後ダメになると感じた。翌日バスで(途中乗車はホテルのボーイに手伝ってもらって) プンタール、ここの“ベスト! だという超あきれたアミット・H (400RS=¥1,000) で一夜を過ごした後、Archana Airways (3,813RS=¥10,000) でデリーに逃げ帰った。そろそろ、ネパールも良いシーズンになった頃だ。

〔是正〕291号P2左段13行目「40キロ」以内を「10キロ以内」に訂正します。

地域ニュース

《ブータン》

1996年ブータンのお祭り

2月24日～28日 プナカ ドムチェ・セーダ

17世紀に初めてブータンを統一し、国の基礎を築いたシャブドゥン・ガワン・ナムゲルは、“ブータンの父”と呼ばれ、今でも人々に慕われている。毎年ブータン暦の1月9日（西暦では2月か3月）に、古都プナカで行われるセーダ祭は、あいつぐチベットからの攻撃を、シャブドゥンガ“とてもユニークな知恵”を使って撤退させたことに由来する。仮面劇が行われる。

3月15日、19日 チョルテン コーラ

大きな目玉チョルテンの周りを村人たちがぐるぐる廻る。周りながら何かをする。

3月27日～29日 ゴム コーラ（タシガン）

3月30日～4月3日 パロ ツェチュ

6月26日 クジュラカン ツェチュ（ブムタン）

9月20日～22日 ウォンディフォンダン ツェチュ

9月22日～24日 ティンパー ツェチュ

“ タムシン パーラ チョパ

9月26日～28日 タンビ マニ（ブムタン）

10月26日～29日 ジャンベラカン ドゥブ

11月17日～20日 モンガル ツェチュ

11月17日～20日 ベーマガツツェル ツェチュ

11月18日～21日 タシガン ツェチュ

12月17日～20日 トンサ ツェチュ

※ツェチュ祭はゾンカで“月の十日”の意味。

8世紀にブータンに仏教を伝えた、グル・パドマサンババの生涯の12の出来事は各月十日目に起きたといわれ、寺院やゾンでは特定の月の十日に年に一度の盛大な法要を行う。

（この項は日本ブータン友好協会が発行している「ブータン第50号、1995.12.15」から転載。）

《中国》

チベットの心、歌で感じて

新宿区西早稲田1丁目で書籍や小物の店を用いているチベット人ケルサン・タウワさんが、2枚のCDを制作した。ドイツ在住のチベット人が歌うポップソングと民謡。本よりも音楽の方が多くの人にチベット人の気持ちが伝わるだろうと、CDの制作を思い立った。亡命し故郷に戻れないむなしさ、子供や父母への愛情などが歌詞に込められている。中には「あの方がいらっしゃらなければ、人生の本質はなくなる」と、グライ・ラマをたたえた歌もある。1枚2,400円。希望する人は、「カワチェン」☎03-3232-4090へ。

《ロシア》

都山岳連隊、雪崩で5人死傷

東京都山岳連盟が、ロシア共和国のシベリアにあるチェルスキー山脈のボベータ（3,147m）に派遣した登山隊（森谷重二郎総隊長、川嶋保幸隊長ら16名）が1月7日午前10時頃、北西壁側からアタック中、隊員4名とロシア人スタッフ3名が雪崩にあい約300m流された。このため中村正幸、吉村千春、高橋昌央の3隊員とロシア人スタッフ2名が負傷しC3に収容された。ロシア人のキム・ゲルマン（48）は収容先のC3で10日午前8時45分死亡した。

都岳連隊は、シベリアの最高峰であるボベータの冬期初登頂を目指し、昨夏偵察隊を派遣した。昨年12月22日新潟を出発し登山活動中だったもの。

《インド》

JAL/ANA インドへ乗り入れ

日本航空と全日本空輸は12月11日、来年度中にも経済成長に注目が集まるインドへ、新たに乗り入れる方針を明らかにした。

日航は大阪発でボンベイかデリーに直行便を飛ばすか、バンコク経由でタイ航空と共同運航する。全日空は東京か大阪発のシンガポール便を延長する形でボンベイへ飛ばす方針。

（1995.12.12 朝日新聞）

インフォメーション

第3回 事故と環境対策研修会

HAJ主催の「高所登山・事故と環境対策研修会」が下記のとおり開催されます。

記

日 時 4月7日(日) 9時～17時
場 所 東京(申込み者にお知らせします。)
会 費 3,000円(昼食は各自) 郵便振替番号
00100-6-48954 日本ヒマラヤ協会
〆切り 3月25日
内 容 (事故対策) 雪崩からどう逃れるか。
クレバス転落を防ぐには、行くか戻るべ
きか、疲労凍死しないためになど。
(環境対策) なぜテイクイン、テイク
アウトは必要なのか、テイクイン、テイク
アウトの実践など。

都岳連・海外登山研究会(春)のお知らせ

東京都山岳連盟の海外委員会が主催する標記研究会が下記の通り開催されます。

記

日 時 3月10日(日) 9時～17時
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
渋谷区神園町 3-1 ☎03-3467-7201
交 通 小田急・参宮橋駅下車徒歩 3分
参加費 3,000円
申込み 参加申込書に参加費を添えて下記まで現
金書留で送付のこと(〆切り3月7日)
〒150 渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育館
☎03-3481-2397(月～金、13時～17時)
内 容 ・高所順応の基礎知識・高山病の実例と
対処・ガモフバックとパルスオキシメー
ター他。
ゲスト・貫田 宗男氏

「トレッキングにも潜む危険」

※参加申込書は都岳連事務局・ICI石井・カモ
シカ等の登山用品店・HAJ事務局においてあり
ます。

プラブーツ突然破壊シンポジウム

山岳4団体(日山協、労山、JAC、HAJ)
で構成されている「プラブーツ懇談会」では、日
本山岳レスキュー協議会などの後援を得て、プラ
スチック製登山靴が突然破壊している現状を広く
一般登山者に知ってもらうために、下記のように
シンポジウムを予定している。

記

日 時 4月21日(日) 9時～17時
場 所 オリピック記念青少年総合センター
定 員 150名
会 費 2,000円(昼食は各自)
内 容 プラブーツ突然破壊の経過報告、プラス
チックの基礎知識、プラブーツ突然破壊
経験談、プラブーツ普及の現状と販売、
パネル・ディスカッション、質疑応答。
申込みは、住所、氏名、年令、質問などを記入
しFAXまたはハガキにて申込む。

Books

SHUKRIA

1994年夏にカラコルム、バツラ山群の名峰シ
スパーレの第二登に成功した三重県の藤野山岳会
の報告書。登頂成功に浮かれることなく、高山病
の反省、テイクイン、テイクアウトの計画と反省、
調査・研究報告では氷河の中の写真などを盛り、
ルート図も見やすい2色にするなど、工夫に溢れ
て読みやすく参考になる報告書である。

B5版 98頁 随所にカラー写真がある。

〒510-12 三重郡菰野町大羽根園柴垣町2-25

増井行照方 ☎0593-93-1475

東京集会のお知らせ

2月の東京集会は、30周年記念行事などについ
て、ざっくばらんな意見交換を行います。

日 時 2月26日(月) 19時
会 場 HAJルーム(地下鉄東池袋下車4番出
口)

トータル獲得標高1995

山森欣一

1995年日本ヒマラヤ登山界八千メートル峰の話題は、チョモランマ峰の北東稜初のトレース。次いで、マカルー峰東稜下部からの登頂。そしてブロード・ピーク三山の縦走とナンガ・パルバット新ルートの開拓である。

この4つの登山は、明らかに2つのパターンに区別される。中国で行われた2つの巨峰を舞台にした登山がこれまで登山界から非難を浴びながら行われて来た「イベント」登山であるのに対して、パキスタンで行われた2つは、アルピニズムの実践であった。

現在の「登山」は多様化し、同じ山を舞台にして「登る」という行為が、様々な形で実践されている。山登りの幅が広がり、どの世代でも手段を選ぶことによって一生、山登りを続けることができることは素晴らしいことであるし、いい時代になったと思う。

さて、話を戻すと、先般、朝日新聞のスポーツ大賞が、チョモランマ峰北東稜初トレース隊に贈られた。登山界からこのような賞を受賞する隊が出ることは大変嬉しいことである。しかし、同隊の成功を支えルートの先端にまで立ったシェルパの活躍を考えると、素直に喜べない気持ちがあるのも事実だ。

これに反して、(主峰に関しては他隊がいたが) アルパイン・スタイルの実践となったブロード・ピーク隊には拍手を贈りたい。若い岳人達には、結果オーライの登山ではなく、アルピニズムの追求を目指してもらいたいと思う。

20000 mを超えた男たちの概要

1995年12月31日現在

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
1	×山 田 昇 (115,804) 14 座 1950.2. 生	a.ダウラギリ I	8,167	N	1978.10.21	群馬県山岳連盟	南東稜	初登攀	1
		b.カンチェンジュンガM	8,586	N	1981.5.9	H A J	南西面		
		c.ランタン・リ	7,205	N	1981.10.10	"	南西稜	初登頂	
		d.ダウラギリ I	8,167	N	1982.10.18	カモシカ同人	北西稜	初登攀	
		e.ローツェ	8,516	N	1983.10.9	"	西 面	日本人初登	
		f.サガルマータ	8,848	N	1983.12.16	"	南東稜	冬期第三登	
		g.マモストーン・カンリ	7,526	I	1984.9.13	H A J	北東稜	初登頂	
		h.K 2	8,611	P	1985.7.24	"	南東稜	O ₂ レス	
		i.サガルマータ	8,848	N	1985.10.30	植村直己 物語	南東稜	"	
		j.マナスル	8,163	N	1985.12.14	カモシカ同人	北東面	冬期第二登	
		k.アンナプルナ I	8,091	N	1987.12.20	群馬県山岳連盟	南 壁	冬期初登攀	
		l.チョモランマ	8,848	C	1988.5.5	J A C	北～南	初縦断	
		m.シシャパンマM	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		n.チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	"	北西面	ハット・トリック	

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
2	近 藤 和 美 (96,077m) 13 座 1941.11. 生 (54才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1984.7.31	九 山 同 人	ツェト		2
		b.レーニン	7,134	S	1984.8.6	"	ラズジ		
		c.コムニズム	7,495	S	1986.8.3	"	ボロド		
		d.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1986.8.9	"	ツェト		
		e.レーニン	7,134	S	1986.8.15	"	ラズジ		
		f.レーニン	7,134	S	1988.8.14	労 山	ラズジ		
		g.ハン・テングリ	7,010	S	1989.8.6	"	ソロマ		
		h.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	"	ポグレ		
		i.ポベータ	7,439	S	1991.8.14	"	ヴァジ	日本人初登	
		j.チョー・オユー	8,201	C	1992.9.20	カトマンズクラブ	北西面	50才	
		k.シシャパンマC	8,008	C	1994.5.18	労 山	北東稜	52才	
		l.ヌン	7,135	I	1995.8.16	"	北西稜		
		m.ダウラギリ I	8,167	N	1995.10.6	"	北東稜	53才	
3	田 辺 治 (77,733m) 10 座 1961.1. 生 (34才)	a.ラブチェ・カン	7,367	C	1987.10.26	H A J	西 稜	初登頂	3
		b.ガッシャーブルムII	8,035	P	1990.7.26	イエティ 同人	南西稜		
		c.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東 海 山 岳 会	ツェト		
		d.コムニズム	7,495	S	1991.7.29	"	ボロド		
		e.レーニン	7,134	S	1991.8.5	"	ラズジ		
		f.ブロード・ピークM	8,047	P	1993.8.24	"	西 稜		
		g.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	"	南西壁	ハット・トリック	
		i.ギャジ・カン	7,038	N	1994.10.7	信 州 大 学	西 稜	初登頂	
		j.マカルー	8,463	C	1995.5.21	J A C	東稜下		
4	尾 形 好 雄 (69,497m) 9 座 1948.7. 生 (47才)	a.ヒマルチュリW	7,540	N	1978.5.7	雪 と 岩 の 会	南西稜	初登頂	5
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	H A J	南東面	日本人初登	
		c.マモストーン・カンリ	7,526	I	1984.9.15	"	北東稜	初登頂	
		d.ギャラ・ペリ	7,294	C	1986.10.31	"	南 稜	初登頂	
		e.リモ I	7,385	I	1988.7.28	"	南 壁	初登頂	
		f.ピラミッド・ピーク	7,123	I	1993.4.24	"	北東稜	初登頂	
		g.チョー・オユー	8,201	C	1993.10.8	群馬県山岳連盟	北西面		
		h.サガルマータ	8,848	N	1993.12.22	"	南西壁	冬期初登攀	
		i.サトバント	7,075	I	1995.9.13	雪 と 岩 の 会	北 稜		
5	重 廣 恒 夫 (63,431m) 8 座 1947.10. 生 (48才)	a.ナンダデヴィ E	7,434	I	1976.6.9	J A C	南 稜	日本人初登	4
		b.K 2	8,611	P	1977.8.8	J M A	南東稜	第二登	
		c.ラトック I	7,145	P	1979.7.19	京都カラコルムC	南 稜	初登頂	
		d.チョモランマ	8,848	C	1980.5.10	J A C	北 壁	初登攀	
		e.カンチェンジュンガC	8,482	N	1984.5.18	"			
		f.マッシャーブルム	7,821	P	1985.7.23	関西カラコルム	北西壁	初登攀	
		g.ブロード・ピークM	8,047	P	1985.8.12	"	西 稜		
		h.ナイブン	7,043	C	1991.11.25	J A C	南西稜	日本人初登	
6	小 西 浩 文	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.29	高 山 研 究 所	ツェト		9

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
	(61,035m) 8 座 1962.3. 生 (33才)	b.コムニズム c.シシャパンマC d.レーニン e.ハン・テングリ f.ブロード・ピークM g.ガッシャーブルムII h.チョー・オユー	7,495 8,008 7,134 7,010 8,047 8,035 8,201	S C S S P P C	1982.8.5 1982.10.10 1988.8.14 1989.8.6 1991.7.30 1993.7.31 1995.5.9	" " イ ー ス ト 群 馬 ミ ヤ マ パイネ／スキー パイネニアソブ ガ イ ア	ボロド 北東稜 ラスジ ソロマ 西 稜 南西稜 北西面		
7	長 尾 妙 子 (54,870m) 7 座 1956.3. 生 (39才)	a.コムニズム b.レーニン c.コムニズム d.ブロード・ピークM e.マカルー f.ガッシャーブルムII g.チョー・オユー	7,495 7,134 7,495 8,047 8,463 8,035 8,201	S S S P N P C	1985.7.28 1985.8.6 1986.8.2 1991.7.30 1991.10.7 1993.7.31 1994.9.25	高 山 研 究 所 " " パイネ／スキー ベルニナ山岳会 パイネニアソブ "	ボロド ラズジ ボロド 西 面 北西稜 南西壁	O ₂ レス A P	6
8	山 本 宗 彦 (54,818m) 7 座 1959.12. 生 (36才)	a.レーニン b.コムニズム c.マッシャーブルム d.ブロード・ピークM e.ラカボシE f.チョモランマ g.マカルー	7,134 7,495 7,821 8,047 7,010 8,848 8,463	S S P P P C C	1983.7.27 1983.8.6 1985.7.23 1985.8.12 1987.7.3 1988.5.5 1995.5.22	J A C " 関西カラコルム " 明 治 大 学 J A C "	ラズジ ボロド 北西壁 西 稜 北 稜 北東稜 東稜下	初登攀	13
9	遠 藤 晴 行 (54,810m) 7 座 1957.2. 生 (38才)	a.サガルマータ b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.レーニン e.ナンガ・パルバット f.ガッシャーブルムI g.ガッシャーブルムII	8,848 7,105 7,495 7,134 8,125 8,068 8,035	N S S S P P P	1983.10.8 1985.7.20 1985.7.28 1985.8.6 1988.7.12 1989.7.12 1990.7.26	イ エ テ ィ 同 人 高 山 研 究 所 " " " " イ エ テ ィ 同 人	南東稜 ツェト ボロド ラズジ 西 面 北 稜 南西稜	O ₂ レス	7
10	田部井 淳 子 (53,174m) 7 座 1939.9. 生 (56才)	a.アンナプルナIII b.サガルマータ c.シシャパンマM d.コルジェネフスカヤ e.コムニズム f.レーニン g.ハン・テングリ	7,555 8,848 8,027 7,105 7,495 7,134 7,010	N N C S S S S	1975.5.16 1975.5.16 1981.4.30 1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1994.8.12	女子登攀クラブ " " " " " "	南西面 南東稜 北東稜 ツェト ボロド ラズジ ソロマ	女性初登頂	8
11	尾 崎 隆 (51,008m) 6 座 1952.9. 生 (43才)	a.ブロード・ピークM b.チョモランマ c.マナスル d.ローツェ e.サガルマータ f.カンチェンジュンガM	8,047 8,848 8,163 8,516 8,848 8,586	P C N N N N	1977.8.8 1980.5.10 1981.10.12 1983.10.9 1983.12.16 1984.5.19	愛知学院大学 J A C イ エ テ ィ 同 人 カ モ シ カ 同 人 " J A C	西 稜 北 壁 北東面 西 面 南東稜 南西面	第二登 初登攀 日本人初登 冬期第三登	10

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
12	三 谷 統一郎 (48,803m) 6 座 1958.3. 生 (37才)	a. アンナプルナ・ダクシン	7,219	N	1978.10.16	明 治 大 学	南西稜	初登攀 日本人初登 初登頂	11
		b. ダウラギリ I	8,167	N	1982.10.17	高 松 労 山	北東稜		
		c. カンチェンジュンガM	8,586	N	1984.5.20	J A C	南西面		
		d. チョー・オユー	8,201	N	1985.10.3	カトマンズクラブ	北西面		
		e. サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	"	南東稜		
		f. ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南 壁		
13	山 本 篤 (48,331m) 6 座 1962.10. 生 (33才)	a. ラカポシE	7,010	P	1987.7.3	明 治 大 学	北 稜	初登頂	22
		b. シシヤパンマ	8,027	C	1988.10.24	H A J	北東稜		
		c. チョー・オユー	8,201	C	1988.11.6	"	北西面		
		d. サガルマータ	8,848	N	1989.10.13	カトマンズクラブ	南東稜		
		e. ナムチャ・バルワ	7,782	C	1992.10.30	J A C	南 壁		
		f. マカルー	8,463	C	1995.5.21	"	東稜下		
14	今 村 裕 隆 (47,797m) 6 座 1959.4. 生 (36才)	a. ギャラ・ベリ	7,294	C	1986.10.31	H A J	南 稜	初登頂 初登攀	21
		b. チョゴリ	8,611	C	1990.8.9	横 浜 山 岳 協 会	北西壁		
		c. カンチェンジュンガM	8,586	I	1991.5.24	H A J	北東稜		
		d. マカルー	8,463	N	1991.10.5	ベルニナ山岳会	北西稜		
		e. スン	7,135	I	1992.8.13	H A J	西 稜		
		f. ティリッチ・ミール	7,708	P	1995.7.7	バーバリアン			
15	江 塚 進 介 (46,830m) 6 座 1961.4. 生 (34才)	a. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.17	東 海 山 岳 会	ツェト	ハットトリック	12
		b. コムニズム	7,495	S	1991.7.29	"	ボロド		
		c. レーニン	7,134	S	1991.8.5	"	ラズジ		
		d. ブロード・ピークM	8,047	P	1993.8.24	"	西 稜		
		e. チョー・オユー	8,201	C	1993.10.11	群馬県山岳連盟	北西面		
		f. サガルマータ	8,848	N	1993.12.20	"	南西壁		
16	高 橋 和 之 (46,112m) 6 座 1943.1. 生 (52才)	a. ダウラギリIV	7,661	N	1975.10.19	カモシカ同人	南 面	第二登 日本人初登 パラバント	14
		b. ローツェ	8,516	N	1983.10.11	"	西 面		
		c. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	高 山 研 究 所	ツェト		
		d. コムニズム	7,495	S	1985.7.28	"	ボロド		
		e. レーニン	7,134	S	1985.8.6	"	ラズジ		
		f. チョー・オユー	8,201	C	1987.9.21	カモシカ同人	北西面		
17	高 橋 堅 (44,166m) 6 座 1958.8. 生 (37才)	a. ネムジュン	7,140	N	1983.10.27	弘 前 大 学	東 稜	初登頂 初登攀	15
		b. ガッシャーブルムII	8,035	P	1985.7.28	横 浜 蝸 牛 山 岳 会	南西稜		
		c. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1988.7.22	弘 前 大 学	ツェト		
		d. コムニズム	7,495	S	1988.7.30	"	ボロド		
		e. レーニン	7,134	S	1988.8.7	"	ラズジ		
		f. ディラン	7,257	P	1989.7.12	"	北 稜		
18	原 真 (43,952m) 6 座 1936.8. 生 (59才)	a. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1976.8.7	J A C 東 海	ツェト		16
		b. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1982.7.31	高 山 研 究 所	ツェト		
		c. シシヤパンマC	8,008	C	1982.10.10	"	北東稜		
		d. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1985.7.21	"	ツェト		
		e. コムニズム	7,495	S	1985.7.29	"	ボロド		

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
		f.レーニン	7,134		1985.8.6	高山研究所	ラズジ		
19	名 塚 秀 二 (43,094m) 5 座 1954.11. 生 (41才)	a.サガルマータ b.チョゴリ c.カンチェンジュンガM d.チョー・オユー e.サガルマータ	8,848 8,611 8,586 8,201 8,848	N C I C N	1985.10.30 1990.8.9 1991.5.24 1993.10.8 1993.12.18	植村直己物語 横浜山岳協会 H A J 群馬県山岳連盟 "	南東稜 北西壁 北東稜 北西面 南西壁	初登攀 冬期初登攀	17
20	×加藤保男 (42,523m) 5 座 1949.3. 生	a.サガルマータ b.ナンダデヴィM c.チョモランマ d.マナスル e.サガルマータ	8,848 7,816 8,848 8,163 8,848	N I C N N	1973.10.26 1976.6.15 1980.5.3 1981.10.14 1982.12.27	R C C II J A C " イエティ同人 "	南東稜 南 稜 北東稜 北東面 南東稜	秋期初登頂 日本人初登 冬期第二登	18
21	×三枝照雄 (42,015m) 5 座 1957.10. 生	a.サガルマータ b.アンナプルナ I c.チョモランマ d.シシャバンマM e.チョー・オユー	8,848 8,091 8,848 8,027 8,201	N N C C C	1985.10.30 1987.12.20 1988.5.5 1988.10.24 1988.11.6	植村直己物語 群馬県山岳連盟 J A C H A J "	南東稜 南 壁 北東稜 北東稜 北西面	冬期初登攀	19
22	八木原 罔 明 5 座 (40,215m) 1946.11. 生 (49才)	a.ダウラギリIV b.ヤルン・カン c.ジチュ・ダケS d.サガルマータ e.チョー・オユー	7,661 8,505 7,000 8,848 8,201	N N B N C	1975.10.21 1981.5.9 1984.5.20 1985.10.30 1993.10.12	カモシカ同人 H A J " 植村直己物語 群馬県山岳連盟	南 面 南東面 東 稜 南東稜 北西面	第二登 日本人初登 初登攀	20
23	宮 崎 勉 (39,761m) 5 座 1947.11. 生 (48才)	a.ダウラギリIV b.ダウラギリ I c.ローツェ d.カルジャン e.チョー・オユー	7,661 8,167 8,516 7,216 8,201	N N N C C	1975.10.21 1978.10.19 1983.10.10 1986.10.16 1993.10.12	カモシカ同人 群馬県山岳連盟 カモシカ同人 H A J 群馬県山岳連盟	南 面 南東稜 西 面 西 面 北西面	第二登 初登攀 日本人初登 初登頂	23
24	×佐藤正倫 (39,156m) 5 座 1963.8. 生	a.7,167m峰 b.ナンガ・パルバット c.ブロード・ピークM d.ナムチャ・パルワ e.ガッシャーブルムII	7,167 8,125 8,047 7,782 8,035	C P P C P	1986.8.16 1990.7.24 1991.7.12 1992.10.30 1993.7.31	東京農業大学 バイネニアソブ 東京農業大学 J A C 東京農業大学	南東面 西 面 " 南 壁	初登頂 初登頂	24
25	和 田 城 志 (39,030m) 5 座 1949.10. 生 (46才)	a.гент II b.ランタン・リルン c.カンチェンジュンガM d.マッシャーブルム e.ブロード・ピークM	7,342 7,234 8,586 7,821 8,047	P N N P P	1978.7.15 1978.10.24 1984.5.20 1985.7.23 1985.8.12	関西学生岳連 大阪市立大学 J A C 関西カラコルム "	北 面 南東面 南西面 北西壁 西 稜	初登頂 初登攀	25
26	東 條 真百合 (37,936m) 5 座 1955.6. 生 (40才)	a.コルジュネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ガッシャーブルムII e.ダウラギリ I	7,105 7,495 7,134 8,035 8,167	S S S P N	1985.7.28 1985.8.7 1985.8.15 1988.8.8 1990.10.9	女子登攀クラブ " " " "	ツェト ボロド ラズジ 南西稜 北東稜		26

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
27	吉 村 哲 明 (37,038m) 5 座 1961.7. 生 (34才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ディラン e.ブロード・ピークM	7,105 7,495 7,134 7,257 8,047	S S S P P	1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12 1991.7.30	弘 前 大 学 " " " " パイン／スキー	ツェト ボロド ラズジ 北 稜 西 稜	初登攀	27
28	岩 崎 洋 (36,648m) 5 座 1960.2. 生 (35才)	a.マモストン・カンリ b.カルジャン c.ピラミッド・ピーク d.ティリッチ・ミール e.サトバント	7,526 7,216 7,123 7,708 7,075	I C I P I	1984.9.15 1986.10.14 1993.4.24 1995.7.7 1995.9.13	H A J " " バーバリアン 雪と岩の会	北東稜 西 壁 北東稜 北 稜	初登頂 " " "	90
29	松 本 正 城 (36,362m) 5 座 1948.11. 生 (47才)	a.クン b.ヌン c.ガッシャーブルムII d.コルジェネフスカヤ e.ハン・テングリ	7,077 7,135 8,035 7,105 7,010	I I P S S	1981.8.27 1982.8.18 1985.7.28 1988.7.30 1989.8.15	R C C II 東京山岳協会 横浜蝸牛山岳会	東 稜 北西稜 南西稜 南東面 ソロマ		28
30	林 雅 樹 (36,183m) 5 座 1963.11. 生 (32才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ハン・テングリ e.ポベータ	7,105 7,495 7,134 7,010 7,439	S S S S S	1990.7.24 1990.8.1 1990.8.7 1994.8.9 1994.8.22	京都クライマーズC " " " "	ツェト ボロド ラズジ ソロマ ヴァジ		29
31	坂 原 忠 清 (36,145m) 5 座 1944.10. 生 (51才)	a.ムスターグ・アタN b.ヌン c.レーニン d.ハン・テングリ e.ポベータ	7,427 7,135 7,134 7,010 7,439	C I S S S	1981.8.7 1982.8.15 1988.8.17 1991.8.10 1991.8.17	スビダーニェ " " 日 本 教 員 "	北 面 西 稜 ラズジ ボグレ ヴァジ	初登頂	30
32	山 中 芳 樹 (35,819m) 5 座 1950.9. 生 (45才)	a.コムニズム b.コルジェネフスカヤ c.レーニン d.ハン・テングリ e.サトバント	7,495 7,105 7,134 7,010 7,075	S S S S I	1986.8.3 1986.8.9 1986.8.15 1989.8.15 1994.9.24	N C P " " 労 山 "	ボロド ツェト ラズジ ソロマ 北 稜		31
33	川 村 晴 一 (33,755m) 1947.12. 生 (48才)	a.クンバカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ d.サガルマータ	7,710 8,586 8,611 8,848	N N C N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.15 1983.10.8	山 学 同 志 会 " J M A 山 学 同 志 会	北 壁 北 壁 北 稜 南東稜	初登攀 " O ₂ レス " O ₂ レス	32
34	石 川 富 康 (33,224m) 1936.11. 生 (59才)	a.チョー・オユー b.サガルマータ c.ダウラギリ I d.シシャパンマC	8,201 8,848 8,167 8,008	C N N C	1991.9.28 1994.5.13 1994.10.1 1995.9.26	シルバートートル 愛知学院大学 シルバートートル Y M S	北西面 南 稜 北東稜 北東稜	54才 57才 " 58才	59
35	谷 口 守 (32,441m) 1948.12. 生 (47才)	a.ナンガ・パルバット b.ブロード・ピークM c.チョー・オユー d.ガッシャーブルム I	8,125 8,047 8,201 8,068	P P C P	1983.7.31 1988.8.13 1992.9.20 1994.8.12	富山県山岳連盟 " カトマンズクラブ 富山県山岳連盟	西 面 西 稜 北西面 北 稜	日本人初登	33

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
36	遠 藤 由 加 (32,429m) 1966.1. 生 (29才)	a.ナンガ・パルバット b.ガッシャーブルムⅠ c.ガッシャーブルムⅡ d.チョー・オユー	8,125 8,068 8,035 8,201	P P P C	1988.7.12 1989.7.12 1990.7.26 1994.9.25	高 山 研 究 所 " イ エ ティ 同 人	西 面 北 稜 南西稜 南西壁	A P	34
37	大 谷 映 芳 (32,154m) 1947.4. 生 (48才)	a.ラカポシ b.K 2 c.クーラ・カンリ d.チョー・オユー	7,788 8,611 7,554 8,201	P P C C	1979.8.2 1981.8.6 1986.4.21 1987.9.21	早 稲 田 大 学 " 神 戸 大 学 カ モ シ カ 同 人	北 稜 西 稜 西 稜 北西面	初登攀 " 初登頂	35
38	谷 川 太 郎 (31,895m) 1967.6. 生 (28才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャーブルムⅡ c.マカルー d.トゥインズ	8,047 8,035 8,463 7,350	P P C N	1991.7.12 1993.7.22 1995.5.22 1995.10.16	東京農業大学 " J A C 東京農業大学	西 稜 東稜下		
39	×齊 藤 安 平 (31,431m) 1953.1. 生	a.ダウラギリⅠ b.ガウリシャンカールS c.マナスル d.アンナブルナⅠ	8,167 7,010 8,163 8,091	N N N N	1982.10.18 1984.10.19 1985.12.14 1987.12.20	カ モ シ カ 同 人 J A C ・ 東 海 カ モ シ カ 同 人 群馬県山岳連盟	北西稜 南東稜 北東面 南 壁	初登攀 " 冬期第二登 冬期初登攀	36
40	後 藤 文 明 (31,285m) 1965.5. 生 (30才)	a.ブモ・リ b.サトパント c.チョー・オユー d.サガルマータ	7,161 7,075 8,201 8,848	N I C C	1987.10.13 1990.8.10 1993.10.8 1993.12.18	境 町 山 の 会 H A J 群馬県山岳連盟 "	南 稜 北 稜 北西面 南西壁	冬期初登攀	37
41	×二 上 純 一 (31,166m) 1951.12. 生	a.シア・カンリ b.バルトロ・カンリⅢ c.ムスターグ・アタ d.チョモランマ	7,422 7,350 7,546 8,848	P P C C	1979.7.30 1979.8.4 1981.6.30 1991.5.27	京都カラコルム " " 貫 田 / 二 上	南西面 北東面 西 面 北東稜	帰路死亡	38
42	重 野 太 肚 二 (31,100m) 1943.4. 生 (52才)	a.ブモ・リ b.ダウラギリⅠ c.チョゴリ d.ブモ・リ	7,161 8,167 8,611 7,161	N N C N	1973.5.1 1978.5.8 1982.8.15 1989.4.21	登 攀 ク ラ ブ イ エ ティ 同 人 J M A チー ム ・ ブ モ リ	南 稜 南 稜 北 稜 南 稜	初登攀 " O ₂	39
43	鈴 木 孝 雄 (30,865m) 1938.5. 生 (57才)	a.レーニン b.コムニズム c.ガッシャーブルムⅡ d.チョー・オユー	7,134 7,495 8,035 8,201	S S P C	1984.8.5 1986.8.3 1990.7.26 1992.9.20	青 田 九 山 同 人 イ エ ティ 同 人 カ ト マ ン ズ ク ラ ブ	ラズジ ボロド 南西稜 北西面	52才 54才	40
44	富 田 雅 昭 (30,771m) 1956.6. 生 (39才)	a.マナスル b.コルジェネフスカヤ c.コムニズム d.シシャパンマC	8,163 7,105 7,495 8,008	N S S C	1981.10.14 1982.7.31 1982.8.5 1982.10.12	イ エ ティ 同 人 高 山 研 究 所 " "	北東面 ツェト ボロド 北東稜		41
45	松 林 公 蔵 (30,183m) 1950.5. 生 (45才)	a.カンベンチン b.ナムナニ c.マサ・カン d.シシャパンマC	7,281 7,694 7,200 8,008	C C B C	1982.4.21 1985.5.26 1985.10.14 1990.5.21	A A C K " " "	東 面 西 面 北東面 北東稜	初登頂 " "	42

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
46	野沢井 歩 (30,171m) 1964. 8. 生 (31才)	a. ヌン b. ダウラギリ I c. プモ・リ d. ティリッチ・ミール	7,135 8,167 7,161 7,708	I N N P	1992. 8. 13 1993. 10. 16 1994. 10. 21 1995. 4. 7	H A J ベルニナ山岳会 バーバーリアンクラブ "	西 稜 北東稜 南 稜 南 稜		
47	青 田 浩 (30,168m) 1958. 1. 生 (37才)	a. アンナプルナ I b. レーニン c. プモ・リ d. ナムチャ・バルワ	8,091 7,134 7,161 7,782	N R N C	1981. 10. 29 1984. 8. 2 1986. 12. 5 1992. 10. 30	イエティ同人 カモシカ同人 J A C	南 壁 ラズジ 北東稜 南 面	初登攀 初登頂	43
48	千 葉 孝 義 (30,027m) 1945. 9. 生 (50才)	a. ダウラギリ II b. シシャバンマ C c. レーニン d. レーニン	7,751 8,008 7,134 7,134	N C S S	1979. 10. 8 1982. 10. 12 1983. 7. 29 1985. 8. 6	カモシカ同人 高山研究部 J A C 高山研究所	II・III・V峰 北東面 ラズジ ラズジ	縦走	44
49	保 坂 昭 憲 (30,012m) 1948. 2. 生 (47才)	a. カンチェンジュンガ M b. ヌン c. カルジャン d. サトパント	8,586 7,135 7,216 7,075	N I C I	1981. 5. 9 1983. 3. 9 1986. 10. 16 1990. 8. 10	H A J こまくさ山岳会 H A J "	南西面 西 稜 西 壁 北 稜	初登頂	45
50	早 川 晃 生 (29,941m) 1956. 7. 生 (39才)	a. ユクシン・ガルダンサル b. ヌン c. チョー・オユー d. サトパント	7,530 7,135 8,201 7,075	P I C I	1984. 7. 23 1986. 10. 3 1987. 9. 20 1990. 6. 12	東 洋 大 学 " カモシカ同人 ワニ眼クラブ	南西面 西 稜 北西面 北 稜		46
51	金 沢 健 (29,935m) 1945. 10. 生 (50才)	a. コルジェネフスカヤ b. コムニズム c. レーニン d. チョー・オユー	7,105 7,495 7,134 8,201	S S S C	1988. 7. 22 1988. 7. 30 1988. 8. 7 1992. 9. 21	カトマンズクラブ " " "	ツェト ボロド ラズジ 北西面		47
52	柳 沢 伸 子 (29,769m) 1950. 10. 生 (45才)	a. コルジェネフスカヤ b. コムニズム c. レーニン d. ガッシャーブルム II	7,105 7,495 7,134 8,035	S S S P	1985. 8. 7 1985. 8. 7 1985. 8. 15 1988. 8. 8	女子登攀クラブ " " "	ツェト ボロド ラズジ 南西稜		48
53	高 橋 純 一 (29,729m) 1948. 11. 生 (47才)	a. コムニズム b. シア・カンリ c. ムスターグ・アタ N d. リモ I	7,495 7,422 7,427 7,385	S P C I	1977. 8. 8 1979. 7. 30 1981. 8. 14 1988. 7. 30	H A J 京都カラコルム C スピダーニ同人 H A J	ボロド 南西面 北 面 南 壁	初登頂	49
54	新 郷 信 廣 (29,250m) 1943. 3. 生 (52才)	a. マモストン・カンリ b. カルジャン c. リモ I d. ピラミッド・ピーク	7,526 7,216 7,385 7,123	I C I I	1984. 9. 15 1986. 10. 14 1988. 7. 29 1993. 4. 24	H A J " " "	北東稜 西 壁 南 壁 北東稜	初登頂 " " " 50才	50
55	黒 滝 淳 二 (29,116m) 1952. 10. 生 (43才)	a. テラムカンリ III b. コルジェネフスカヤ c. コムニズム d. レーニン	7,382 7,105 7,495 7,134	P S S S	1979. 8. 4 1988. 7. 22 1988. 7. 30 1988. 8. 7	弘 前 大 学 " " "	南東面 ツェト ボロド ラズジ	初登頂	51
56	品 川 幸 宏	a. コルジェネフスカヤ	7,105	S	1994				

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ルート	摘 要	*
	(29,049m) 1968.2. 生 (27才)	b.コムニズム c.ハン・テングリ d.ポベータ	7,495 7,010 7,439	S S S	1994 1995 1995				
57	堀 弘 (28,991m) 1957.8. 生 (38才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ディラン	7,105 7,495 7,134 7,257	S S S P	1988.7.22 1988.7.30 1988.8.7 1989.7.12	弘 前 大 学 " " "	ツェト ボロド ラズジ 北 稜	初登攀	52
58	黒 沢 孝 夫 (28,744m) (46才)	a.コルジェネフスカヤ b.コムニズム c.レーニン d.ハン・テングリ	7,105 7,495 7,134 7,010	S S S S	1981.7.26 1981.8.4 1983.7.30 1992.8.9		ツェト ボロド スクラ ボグレ		53
59	×北 沢 真 一 (28,259m) 1952.2. 生	a.コルジェネフスカヤ b.レーニン c.ハン・テングリ d.ハン・テングリ	7,105 7,134 7,010 7,010	S S S S	1986.7.24 1986.8.15 1989.8.6 1989.8.15	N C P " 労 山 "	ツェト ラズジ ソロマ "	帰路死亡	54
60	村 上 和 也 (25,975m) 1955.3. 生 (40才)	a.ローツェ b.サガルマータ c.K 2	8,516 8,848 8,611	N N P	1983.10.19 1983.12.16 1985.7.24	カモシカ同人 " H A J	西 面 南東稜 南東稜	日本人初登 冬期第三登	55
61	×吉 野 寛 (25,626m) 1950.2. 生	a.ダウラギリ I b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1978.5.11 1982.8.14 1983.10.8	イエティ同人 J M A イエティ同人	南 稜 北 稜 南東稜	初登攀 " O ₂ レス	56
62	×禿 博 信 (25,626m) 1951.10. 生	a.ダウラギリ I b.チョゴリ c.サガルマータ	8,167 8,611 8,848	N C N	1981.6.2 1982.8.15 1983.10.8	高 山 研 究 所 J M A イエティ同人	北東稜 北 稜 南東稜	単独 初登攀O ₂ レス O ₂ レス	57
63	貫 田 宗 男 (25,314m) 1951.3. 生 (44才)	a.ダウラギリ V b.チョモランマ c.サガルマータ	7,618 8,848 8,848	N C N	1979.10.9 1991.5.27 1994.10.10	カモシカ同人 貴 田 / 二 上 "	南 稜 北東稜 南東稜		58
64	鈴 木 昇 己 (25,144m) 1951.10 生 (44才)	a.クンパカルナ b.カンチェンジュンガM c.サガルマータ	7,710 8,586 8,848	N N N	1976.5.10 1980.5.14 1983.10.8	山 学 同 志 会 " "	北 壁 " 南東稜	初登攀 " O ₂ レス " O ₂ レス	60
65	中 村 省 爾 (25,120m) 1942.5 生 (53才)	a.ダウラギリ IV b.K 2 c.チョモランマ	7,661 8,611 8,848	N P C	1975.10.21 1977.8.8 1988.5.5	カモシカ同人 J M A J A C	南 面 南東稜 北東稜	第二登 第二登	61
66	井 本 重 喜 (24,942m) 1963.1 生 (32才)	a.ヒマチュリM b.チョー・オユー c.チョモランマ	7,893 8,201 8,848	N C C	1986.10.26 1994.9.27 1995.5.11	日 本 大 学 " "	南 稜 北西面 北東稜	初登攀	
67	坂 下 直 枝 (24,907m) 1947.2 生 (48才)	a.クンパカルナ b.カンチェンジュンガM c.チョゴリ	7,710 8,586 8,611	N N N	1976.5.11 1980.5.14 1982.8.14	山 学 同 志 会 " J M A	北 壁 北 壁 北 稜	初登攀 " O ₂ レス " O ₂ レス	62
68	吉 田 文 江 (24,403m) 1955.10. 生 (40才)	a.ガッシャーブルム II b.ダウラギリ I c.チョー・オユー	8,035 8,167 8,201	P N C	1988.8.8 1990.10.9 1993.10.12	女子登攀クラブ " 群馬県山岳連盟	南東稜 北東稜 北西面		63

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
69	×大 西 宏 (24,321m) 1962.5. 生	a.ラカボシE b.サガルマータ c.マカルー	7,010 8,848 8,463	P N N	1987.7.3 1989.10.13 1990.5.6	明 治 大 学 カトマンズクラブ 高 山 研 究 所	東 稜 南東稜 北西稜		64
70	山野井 泰 史 (24,283m) 1965.4. 生 (30才)	a.ブロード・ピークM b.ガッシャーブルムII c.チョー・オユー	8,047 8,035 8,201	P P C	1991.7.30 1993.7.31 1994.9.23	バイネニアソブ " "	西 稜 南西稜 南西壁	初登攀A P	65
71	戸 高 雅 史 (24,283m) 1965.4. 生 (30才)	a.ナンガ・バルバット b.ガッシャーブルムII c.ブロード・ピークM	8,125 8,035 8,047	P P P	1990.8.18 1993.7.31 1995.7.19	 バイネニアソブ F O S	西 面 西 稜	縦走	
72	鈴 木 清 彦 (23,885m) 1957.2 生 (38才)	a.ガウリシャンカールS b.シシャパンマM c.サガルマータ	7,010 8,027 8,848	N C N	1984.10.19 1989.4.16 1994.5.8	J A C 東 海 愛知学院大学 "	南東稜 北東稜 南 稜	初登攀	66
73	小 西 政 継 (23,885m) 1938.11. 生 (57才)	a.クンバカルナ b.ダウラギリI c.シシャパンマC	7,710 8,167 8,008	N N C	1976.5.12 1994.10.1 1995.9.26	山 学 同 志 会 シルバートートル Y M C	北 壁 北東稜 北東稜	初登攀 55才 56才	
74	上 野 幸 人 (23,863m) 1954.1. 生 (41才)	a.コムニズム b.ダウラギリI c.チョー・オユー	7,495 8,167 8,201	S N C	1986.8.2 1994.9.27 1995.9.29	高 山 研 究 所 秋 田	ボロド 北東稜 北西面		
75	大 宮 求 (23,658m) 1949.4. 生 (46才)	a.カンチェンジュンガM b.シシャパンマC c.サトパントW	8,586 8,008 7,045	N C I	1980.5.17 1982.10.12 1983.5.22	山 学 同 志 会 高 山 研 究 所 山 学 同 志 会	北 壁 北東稜 北西稜	登攀O ₂ レス 初登頂	67
76	×小 松 幸三 (23,579m) 1954.1. 生	a.ダウラギリIV b.ダウラギリII c.ダウラギリI	7,661 7,751 8,167	N N N	1975.10.21 1979.10.13 1982.10.18	カモシカ同人 " "	南 面 II・III・V縦走 北西稜	第二登 初登攀	68
77	高 見 和 成 (23,570m) 1945.5. 生 (50才)	a.カンビレディオール b.ナンダデヴィW c.チョゴリ	7,143 7,816 8,611	P I C	1975.6.14 1976.6.15 1982.8.15	広 島 山 の 会 J A C J M A	北西稜 主峰～ 北 稜	初登頂 東峰縦走 初登攀Q ₂ レス	69
78	中 西 紀 夫 (23,545m) 1958.3. 生 (37才)	a.アンナプルナ・ダクシン b.ナンガ・バルバット c.チョー・オユー	7,219 8,125 8,201	N P N	1978.10.16 1983.7.31 1985.10.3	明 治 大 学 富山県山岳連盟 カトマンズクラブ	南西稜 西 面 北西面	初登攀 日本人初登 日本人初登	70
79	吉 田 憲 司 (23,300m) 1953.1. 生 (42才)	a.ハチンダール・キッシュ b.マモストン・カンリ c.K 2	7,163 7,526 8,611	P I P	1982.8.4 1984.9.13 1985.7.24	金 沢 大 学 H A J "	東 壁 北東稜 南東稜	初登頂 初登頂	71
80	×日 野 悦 郎 (23,270m) 1940.5. 生	a.ニルギリM b.チョー・オユー c.シシャパンマC	7,061 8,201 8,008	N C C	1981.5.7 1986.10.16 1992.5.6	福 岡 G C C 北 九 州 J A C 福 岡	東 稜 北西面 北東稜	第二登 越境 52才	72
81	桑 原 巖 (23,185m) 1935.11. 生 (60才)	a.ハン・テングリ b.シシャパンマC c.ダウラギリI	7,010 8,008 8,167	S C N	1991.8.2 1994.5.19 1995.10.6	労 山 " "	ボグレ 北東稜 北東稜	58才 59才	
82	飛 田 和 夫 (23,171m) 1946.1. 生 (49才)	a.トリスルI b.ヤルン・カン c.ムスターグ・アタ	7,120 8,505 7,546	I N C	1978.9.28 1981.5.5 1994.8.18	H A J " "	南 稜 南東面 西 稜	初登攀 日本人初登	73

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
83	平 林 克 敏 (23,014m) 1934.12. 生 (61才)	a.アビ	7,132	N	1960.5.10	同 志 社 大 学	北 面	初登頂	74
		b.サイバル	7,034	N	1963.10.21	〃	南 面	〃	
		c.サガルマータ	8,848	N	1970.5.12	J A C	南東稜	日本人初登	
84	島 方 健 次 (23,009m) 1947.12. 生 (48才)	a.ハラモシュ	7,409	P	1978.7.22	昭 和 山 岳 会	北西面		75
		b.チャンツェ	7,553	C	1986.5.10	J M A	東 稜		
		c.ブロード・ピークM	8,047	P	1988.6.27	昭 和 山 岳 会	西 面		
85	八 嶋 寛 (22,979m) 1950.3. 生 (45才)	a.トリスルI	7,120	I	1978.9.28	H A J	南 稜	初登攀	76
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	〃	南東面	日本人初登	
		c.チョー・アウイ	7,354	C	1986.10.14	〃	西 稜	初登頂	
86	×小 林 利 明 (22,939m) 1948.12. 生	a.ダウラギリI	8,167	N	1978.5.8	イ エ ティ 同 人	南 稜	初登攀	77
		b.シア・カンリ	7,422	P	1979.7.30	京 都 カ ラ コ ル ム	南西面		
		c.パルトロ・カンリ	7,350	P	1979.8.4	〃	北東面		
87	中 島 俊 弥 (22,848m) 1964.12. 生 (31才)	a.ダウラギリI	8,167	N	1991.10.11	昭 和 山 岳 会	北東稜		
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1993.8.17	H A J	西 稜		
		c.ヌン	7,135	I	1995.8.16	〃	西 稜		
88	×角 田 不 二 (22,760m) 1952.9. 生	a.トリスルI	7,120	I	1978.9.28	H A J	南 稜	初登攀	78
		b.ヤルン・カン	8,505	N	1981.5.9	〃	南東面	日本人初登	
		c.ヌン	7,135	I	1983.8.16	〃	西 稜		
89	中 山 茂 樹 (22,754m) 1962.3. 生 (33才)	a.マサカン	7,200	B	1985.10.13	A A C K	北東面	初登頂	79
		b.ムスターグ・アタ	7,546	C	1989.5.31	〃	西 面		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1990.5.17	〃	北東稜		
90	田 村 正 勝 (22,728m) 1942.4. 生 (53才)	a.ヌン	7,135	I	1991.8.14	H A J	西 稜	51才	80
		b.ブロード・ピークM	8,047	P	1993.7.21	わ ら じ の 仲 間	西 稜		
		c.ムスターグ・アタ	7,546	C	1994.8.18	H A J	西 稜		
91	大 谷 亮 (22,721m) 1959.9. 生 (36才)	a.カンチェンジュンガC	8,482	N	1984.5.17	J A C	南西面	日本人初登	81
		b.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1990.7.27	〃	ツェト		
		c.レーニン	7,134	S	1990.8.6	〃	ラズジ		
92	駒 宮 博 男 (22,637m) 1954.5. 生 (41才)	a.コムニズム	7,495	S	1982.8.2	高 山 研 究 所	ボロド		82
		b.シシャパンマC	8,008	C	1982.10.10	〃	北東面		
		c.レーニン	7,134	S	1983.8.2	〃	ラズジ		
93	服 部 徹 (22,496m) (25才)	a.ハンテグリ	7,010	C	1994.8.10	F O S	ソロマ	縦走	
		b.ポベータ	7,439	C	1994.8.18		Sイヌ		
		c.ブロード・ピークM	8,047	P	1995.7.18		N-C		
94	小 泉 章 夫 (22,493m) 1955.11. 生 (40才)	a.クンヤン・チッシュN	7,200	P	1979.7.11	北 海 道 大 学	北 稜	初登頂	83
		b.ダウラギリI	7,167	N	1982.12.13	〃	北東稜	冬期初登頂	
		c.ヒムルン・ヒマール	7,126	N	1992.10.3	〃	北西面	初登頂	
95	倉 橋 秀 郎 (22,457m) 1960.2. 生 (35才)	a.ハン・テングリ	7,010	S	1991.8.2	労 山	ボグレ	日本人初登	85
		b.ポベータ	7,439	S	1991.8.14	〃	ヴァジ		
		c.シシャパンマC	8,008	C	1994.5.18	〃	北東稜		
96	古 関 正 雄 (22,407m) 1961.3. 生 (34才)	a.コルジェネフスカヤ	7,105	S	1991.7.27	横 浜 鍋 牛 山 岳 会	ツェト		86
		b.ヌン	7,135	I	1992.8.15	H A J	西 稜		
		c.ダウラギリI	8,167	N	1993.10.6	ベ ル ニ ナ 山 岳 会	北東稜		

順位	氏 名	山 名	標高(m)	地域	登 頂 日	派 遣 母 体	ル ー ト	摘 要	*
97	岡 林 良 一 (22,270m) 1951.11. 生 (44才)	a.ヌン b.ナンガ・パルバット c.ハン・テングリ	7,135 8,125 7,010	I P S	1985.8.15 1987.8.19 1992.8.1	川 崎 教 員 " 東 農 工 大	西 稜 西 面 ポグレ		87
98	金 子 秀 一 (21,946m) 1959.10. 生 (36才)	a.レーニン b.レーニン c.マカルーII	7,134 7,134 7,678	S S N	1989.8.16 1992.7.16 1992.9.25	 バーバリアン	ラズジ ラズジ 東 稜		88
99	金 子 珠 美 (21,946m) 1958.4. 生 (37才)	a.レーニン b.レーニン c.マカルーII	7,134 7,134 7,678	S S N	1989.8.16 1992.7.26 1992.9.25	 バーバリアン	ラズジ ラズジ 東 稜		89
100	安 藤 昌 之 (21,892m) 1955.11. 生 (40才)	a.ユクシン・ガルゲンサル b.コルジェネフスカヤ c.ディラン	7,530 7,105 7,257	P S P	1984.7.25 1988.7.22 1989.7.12	弘 前 大 学 " "	南西面 ツェト 北 稜	初登攀	90
101	橋 本 康 弘 (21,796m) 1954.8. 生 (41才)	a.ギャラ・ベリ b.ラブチェ・カン c.ヌン	7,294 7,367 7,135	C C I	1986.10.31 1987.10.27 1991.8.14	H A J " "	南 稜 西 稜 西 稜	初登頂 " "	92
102	関 根 幸 次 (21,756m) 1933.10. 生 (62才)	a.サトパント b.ヌン c.ムスターグ・アタ	7,075 7,135 7,546	I I C	1990.8.10 1992.8.15 1994.8.19	H A J " "	北 稜 西 稜 西 稜	57才 58才 60才	93
103	三 原 洋 子 (21,755m) 1941.5. 生 (54才)	a.サトパント b.ムスターグ・アタ c.レーニン	7,075 7,546 7,134	I C S	1983.8.24 1986.8.16 1989.8.16	婆 娑 羅 衆 西 域 研 究 会	北 稜 西 稜 ラズジ		94
104	8 名 (21,734m)	a.コムニズム b.レーニン c.コルジェネフスカヤ	7,495 7,134 7,105	S S P	石川龍彦、×井波美保、松永忠則、鴨川正昭、 斉藤 正、入瀬 透、横森健治、梶山 正、				95
112	花 井 修 (21,546m) 1952.1. 生 (43才)	a.クンヤン・チッシュN b.バルンツェ c.ヒムルン・ヒマール	7,200 7,220 7,126	P N N	1979.7.11 1980.12.15 1992.10.3	北 海 道 大 学 " "	北 稜 南 稜 北西面	初登頂 冬期初登頂 初登頂	103
113	須 藤 圭 一 (21,502m) 1953.5. 生 (42才)	a.ジチュ・ダケS b.ラブチェ・カン c.ヌン	7,000 7,367 7,135	B C I	1984.5.20 1987.10.26 1992.8.15	H A J " "	東 稜 西 稜 西 稜	初登攀 初登頂 "	104
114	溝 手 康 史 (21,465m) 1955.5. 生 (40才)	a.ハン・テングリ b.ボベダ c.アクタシ	7,010 7,439 7,016	S S I	1991.8.2 1991.8.14 1993.8.6	労 山 " 広 島 山 岳 会	ソロマ ヴァジ 南西壁	初登頂	105

(注) 1) *印欄の数字は1994年12月末現在の順位

2) 氏名の前の×印は故人

3) 地域のNはネパール、Pはパキスタン、Iはインド、Cは中国、Sは旧ソ連、Bはブータン

旧ソ連を除いたベスト40

1.	山田 昇	14座	115,804m	1989死亡
2.	尾形 好雄(47)	9座	69,497m	
3.	重廣 恒夫(48)	8座	63,431m	
4.	田辺 治(34)	7座	55,999m	
5.	尾崎 隆(43)	6座	51,008m	
6.	三谷統一郎(37)	6座	48,803m	
7.	山本 篤(33)	6座	48,331m	
8.	今村 裕隆(36)	6座	47,797m	
9.	名塚 秀二(41)	5座	43,094m	
10.	加藤 保男	5座	42,523m	1982死亡
11.	三枝 照雄	5座	42,015m	1989死亡
12.	八木原圀明(49)	5座	40,215m	
13.	山本 宗彦(36)	5座	40,189m	
14.	宮崎 勉(48)	5座	39,761m	
15.	佐藤 正倫	5座	39,156m	1993死亡
16.	和田 城志(46)	5座	39,030m	
17.	岩崎 洋(35)	5座	36,648m	
18.	川村 晴一(48)	4座	33,755m	
19.	石川 富康(59)	4座	33,224m	
20.	遠藤 晴行(38)	4座	33,076m	
21.	長尾 妙子(39)	4座	32,746m	
22.	谷口 守(47)	4座	32,441m	
23.	遠藤 由加(29)	4座	32,429m	
24.	大谷 映芳(48)	4座	32,154m	
25.	谷川 太郎(28)	4座	31,895m	
26.	近藤 和美(54)	4座	31,511m	
27.	斎藤 安平	4座	31,431m	1987死亡
28.	後藤 文明(30)	4座	31,285m	
29.	二上 純一	4座	31,166m	1991死亡
30.	重野太肚二(52)	4座	31,100m	
31.	松林 公蔵(45)	4座	30,183m	
32.	野沢井 歩(31)	4座	30,171m	
33.	保坂 昭憲(47)	4座	30,012m	
34.	早川 晃生(39)	4座	29,941m	
35.	新郷 信廣(52)	4座	29,250m	
36.	村上 和也(40)	3座	25,975m	
37.	吉野 寛	3座	25,626m	1983死亡
38.	禿 博信	3座	25,626m	1983死亡
39.	貫田 宗男(44)	3座	25,314m	
40.	鈴木 昇己(44)	3座	25,144m	

高令登頂者（実）ベスト40

1.	三角 朗	ハン・テングリ (7,010m)	62
2.	関根 幸次	ムスターグ・アタ(7,546m)	60
3.	斉藤 惇生	シシャパンマC (8,008m)	60
4.	原田 達也	シシャパンマC (8,008m)	60
5.	桑原 巖	ダウラギリ I (8,167m)	59
6.	中島 道郎	シシャパンマC (8,008m)	59
7.	山本 俊雄	チョー・オユー (8,201m)	59
8.	石川 富康	シシャパンマC (8,008m)	58
9.	小西 政継	シシャパンマC (8,008m)	56
10.	嶋村芙美江	レーニン (7,134m)	56
11.	渡辺 玉枝	ダウラギリ I (8,167m)	55
12.	池田 錦重	ダウラギリ I (8,167m)	55
13.	井上 博之	ハン・テングリ (7,010m)	55
14.	鈴木 延隆	チリン (7,038m)	55
15.	田部井淳子	ハン・テングリ (7,010m)	54
16.	根津 皖一	ダウラギリ I (8,167m)	54
17.	鈴木 孝雄	チョー・オユー (8,201m)	54
18.	近藤 和美	ダウラギリ I (8,167m)	53
19.	川原 慶紀	シシャパンマC (8,008)	53
20.	酒井 国光	ムスターグ・アタ(7,546m)	53
21.	藤井 洋	チリン (7,038m)	53
22.	畠山 正昭	チョー・オユー (8,201m)	52
23.	佐藤 淳志	ハン・テングリ (7,010m)	52
24.	田村 正勝	ムスターグ・アタ(7,546m)	52
25.	遠藤 京子	サトパント (7,075m)	52
26.	×日野 悦郎	シシャパンマC (8,008)	51
27.	西嶋鍊太郎	ムスターグ・アタ(7,546m)	51
28.	宮川 清明	ティリッチ・ミール (7,708m)	50
29.	平川 宏子	サトパント (7,075m)	50
30.	新郷 信廣	ピラミッド・ピーク(7,123m)	50
31.	倉井 登代	ハン・テングリ (7,010m)	50
32.	有永 寛	ハン・テングリ (7,010m)	50
33.	燕昇司 実	スバンティーク (7,027m)	49
34.	赤星隆一郎	スバンティーク (7,027m)	49
35.	南 勲	コルジェネフスカヤ (7,105m)	49
36.	広島 三朗	スバンティーク (7,027m)	49
37.	樋上 嘉秀	ムスターグ・アタ(7,546m)	49
38.	松原 繁	ムスターグ・アタ(7,546m)	49
39.	原 真	レーニン (7,134m)	48
40.	成崎 公生	ダウラギリ I (8,167m)	48

■ 寸 感 ■

先日、東京大学総合研究資料館で開れた公開講座「ヒマラヤの自然と高山植物」に出席した。キッカケは、昨年12月に訪韓した折に、朴鉄岩さんから依頼された「ヒマラヤの花」の写真であった。朴さんが最近歩かれたチベットで撮影された花の名称を調べて欲しい、との依頼なのである。

門外漢であり困ってしまったのであるが、とりあえず預って来た。年末に公開講座の案内を知り、渡りに船とばかりに出かけた次第である。

公開講座の世話役である大場秀章氏の「ヒマラヤの高山植物—その適応と生態」によれば、高等植物のギネス記録は、カメットの標高6,400mにあるアブラナ科とキンポウゲ科の草木であるらしい。浅学にして知らなかった。どなたか、これより高い所で高等植物を見た方はいませんか。(山森)

事務局日誌(1月)

10日(水) ヒマラヤ291号発送、会費請求書発送、プラブーツ懇談会(於、HAJ

ルーム山森、中川)

16日(火) 中国登山協会からムスターグ・アタ許可通知
20日~21日 ムスターグ・アタ合宿(於、ルーム)ヌン反省会(於、ルーム)
22日(月) 山と溪谷社編集部と懇談(於、山溪本社、山森)
27日~28日 第17回インド・ヒマラヤ会議(於、群馬県青少年会館)
29日(月) 東京集会(20名)

ヒマラヤ No.292 (3月号)

平成8年2月10日印刷 8年3月1日発行

発行人 稲田 定重

編集人 山森 欣一

発行所 日本ヒマラヤ協会

〒170 東京都豊島区東池袋4-2-7

萬栄ビル501号

電話 03-3988-8474

郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

●ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)

●パルスオキシメーター

(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION & TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。



マウンテントラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号

遥かなる旅へ



個人・グループの手配旅行、航空券の取り扱い専門デスク



キャラバンデスク TEL03-3237-8384

～地球の果てまであなたのキャラバンのお手伝い～

トレッキング・登山隊の許可取得から航空券・現地手配までお引き受けいたします。
～ネパール・インド・ブータン・パキスタン・東南アジア・アフリカ・南米～

トレッキング・海外登山
シルクロード・秘境旅行
のバイオニア



**株式
会社**

西遊旅行

東京本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)1391(代表)

キャラバンデスク 〒101 東京都千代田区神田神保町2-3-1岩波書店アネックス5階 ☎03(3237)8384(代表)

大阪営業所 〒530 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5F ☎06(367)1391(代表)

カトマンズ営業所 JAI HIMAL TREKKING(P) Ltd. P.O. BOX3017 KATHMANDU, NEPAL ☎221707

運輸大臣登録一般旅行業607号

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店／〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店／〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店／〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店／〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店／〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店／〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館／〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店／〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店／〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店／〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店／〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(641)5707
- 高崎店／〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店／〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店／〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブルーカ店／〒950 新潟県新潟市天神1-1 ブルーカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店／〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店／〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店／〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店／〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店／〒001 札幌市北区北十二条西3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店／〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店／〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メルオーダー)／〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所／〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004